



児童養護施設一関藤の園
 〒021-0061
 一関市山目字館 2-5
 Tel 0191-23-1544
 Fax 0191-23-1545
ichi.fujinosono@mirror.ocn.or.jp
 編集：渡部／千葉(美)

改築の起工式を挙行

社会福祉法人ふじの園

理事長 中西 秀吉

八月二十五日、カトリック仙台教区一関教会主任司祭の佐藤守也神父様、司式により新園舎改築の起工式が執り行われました。

ただ今は、仙台教区一関教会主任司祭佐藤守也神父様により「起工式の祈り」が皆様の参加のもとに滞りなく執り行われ、ホッといたしております。

振り返りますと、昨年三月の東日本大震災から一年五か月が過ぎましたが、その間、国内はもとより、世界中の企業や団体、そして個人の方々から心温まるご支援ご協力を頂き、本日この日を子どもたちと共に笑顔で迎えることができました。

あの大震災により建物は大きなダメージを受け、途方に暮れていた私たちに手

ふれあいを通して学び合える施設。②太陽光など自然エネルギーを活用した環境にやさしい自家発電を取り入れた施設。③災害時に、地域の避難所にも活用でき、加えて一関における今後の自然エネルギー活用を共に学べる場の提供などを考えております。

このように、改築される一関藤の園は、沢山の人は、子どもたちが一日も早く安全で安心した普通の生活ができるよう「藤の園改築プロジェクト」を立ち上げ、多くの方々のご支援とご協力を頂きながら子どもたちや地域の方々にも喜んでもらえるような園舎にしたいとの検討を重ねてまいりました。

新しい園舎は、①子どもたちが安全で安心して生活ができ、人間関係や

(起工式の挨拶から)



中西理事長、マウエル園長と子どもたち



支援者のみなさんとの記念撮影

うだるような暑さの中、東京から駆けつけてくださったシーメンス・ジャパン(株)、アリアンツ生命保険(株)、エポニック デグサ ジャパン(株)をはじめとするサポーターズのみなさん、近隣の方々、設計や建築の関係者のみなさん、そして子どもたち、法人役員、職員合わせて100名を超える方々が起工式に参列しました。子どもたちは、新しい園舎が早く出来て生活できますように・・・とお祈りをしました。

蘭梅山

二十三歳の卒園生から来た手紙の一部を紹介します。

「今、店長という立場になり、常に一緒に働いているスタッフやお客様の気持ちに前より考えるようになりました。今、この人はどんなことを考えているんだろう。スタッフのケアや職場をまとめるのも僕の仕事なんです。現場に一人だけ仕事ができる人間がいてもいいお店はできないんです。スタッフみんなが同じ方向を向き、同じ目標に向かっていかなければ、お客様にいいサービスは提供できないんです。個人プレーじゃダメなんです。お店の仲間、一つのチームとして考えることだと思います。中には仕事がありません。中には人もいません。前の自分は「使えないな」なんて思ったりしたけど、今はその人のいいところを探そうにしているんです。ダメなところばかり見れば使えないと思うのは当然です。しかし、その人しか無いものを探せば見方が変わってくるんです。必ずいいところは誰もが持っていると思います。そんなことを店長になって思うんです。」

この手紙は、いつまでも大切にとっておきたいと思

ディズニーランドへ行ってきたよ

6月2日と3日の1泊2日でJAIFA（生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会）のご招待でディズニーランドに行ってきました。子どもたちと職員合わせて63名。新幹線に乗ってJAIFAの式典に参加したりスカイツリーを見たり、2日目は1日中、ディズニーランドでもいっきりに遊ぶことができました。

子どもたちとディズニーランドで遊べるなんてまるで夢のような2日間でした。



BBQやサイン会をありがとう

6月10日、フォンテラジャパン（株）のみなさんと漫画家の山田貴敏先生と細野不二彦先生が来園され、一緒にチーズやウインナーを作ったり、バーベキューをして過ごしました。午後からは、山田先生と細野先生が子どもたち一人ひとりにマンガを描いて下さいました。

短い時間でしたが、とても楽しい時間を持つことが出来ました。

フォンテラジャパン(株)様からは定期的にチーズも頂いております。いつも感謝です。・・・



楽しかったよ！サマーキャンプ

8月6日から9日まで宮城県の花山でNPO法人リビング・ドリームズの主催によるサマーキャンプに行ってきました。冬キャンプに引き続いてのサマーキャンプ。今回は8人の子どもたちが参加しました。ナイトハイキングや沢登り、星座観察など自然の中で他の施設の子どもたちとも交流を深めることができました。

帰園した子どもたちは、逞しさと達成感にあふれていました。



はなみずきを記念樹に・・・

いつもご支援を頂いているピュアハウスの「ハートアライズ」のみなさんから当施設の創立50周年を記念して紅白のはなみずきの寄贈がありました。

7月14日、ピュアハウスの方々と一緒に記念の植樹を行いました。子どもたちは、「早くお花が咲いたらいいね」と楽しみにしています。

「はなみずき」も子どもたちもスクスと大きく育って欲しいと思います。



第2次中長期事業計画を策定

平成24年8月の法人理事会において、第2次中長期事業計画が承認されました。第2次中長期事業計画は、これからの5年間の施設の方向性を示す羅針盤です。国の制度等が変化する中で「家庭的養育」をテーマに養育環境を整備するとともにハード・ソフト面の充実を図ってまいります。

- (1) 計画の理念 計画の大目標 『安全感・安心感・安定感のある施設の創造』
- (2) 計画の方針 施設運営の方針 『健全な施設運営による良質なサービスの提供』
養育の方針 『ユニット制による家庭的養育体制の確立』
- (3) 計画の期間 平成24年4月1日から平成29年3月31日までの5ヶ年
- (4) 計画重点目標

- ① 施設機能の強化（運営関係）
新園舎の早期の完成、その後の養育体制、職員体制を確立し社会的養護及び地域の福祉ニーズに応える施設を目指します。
- ② 養育の質の向上（養育関係）
園舎の改築に伴い、従来の大舎制からユニット制に移行します。より家庭的な養育を目指しソフト・ハード面での充実を図ります。
- ③ 人材の確保と人材の育成（人事管理）
施設運営の根幹は人材であることを認識し、必要な人材を確保するとともに人材の育成を積極的に図ってまいります。

エコ・ワークショップ ～やっぱり自然はいいよ～



9月1日、子どもたちと栗駒山のふもとにある「くりこま高原自然学校」に行ってきました。

新しい園舎は、自然再生エネルギーを利用した建物になりますが、子どもたちに水や電気を大切に使うことを、自然を大切にしたいとの思いからマルティン・インターナショナルの協力を頂きエコ・ワークショップを開くことにしました。

ワークショップでは、NPO法人日本の森バイオマスネットワークのスタッフの皆さんのご指導のもと、薪割り体験、その後、割った薪で火を起しご飯とカレーを作りました。また午後からはバードコール作りや森の散策、馬の餌やりを体験しました。ほとんどの子どもは薪割りをしたり薪で炊事をした経験がありません。最初は不安そうに見ていた子どももいつの間にか積極的に薪割りをしていました。また食器洗いも限られた少量の水で洗う体験をしました。

子どもたちの絵日記や感想文には、「ごはんはかたかったけどカレーが美味しかった!」「薪割りはたいへんだったけど、最後はじょうずにできて楽しかった」「馬にガブツとかじられたのでびっくりした」などと書いてありました。高学年の子どもたちも普段の生活とは違う体験ができたことに満足した様子でした。そして、できれば、また来てみたいという子どもたちがほとんどでした。

今回のワークショップはエコについて学ぶことが目的でしたが、子どもの時から自然に親しみ自然を大切にする人は、人に対してもやさしくすることができるように思います。数時間の滞在でしたが、普段の生活では見られない子どもたちの姿を見ることができてとても良かったと思います。子どもたちには大自然がとても似合います。



ライオンズ夏まつり

7月20日、恒例となっている一関中央ライオンズクラブの皆さんによる夏まつりが開催されました。

昨年は30周年の記念の年でしたが、生憎の雨で途中で中止となり、たいへん残念な思いをしました。「今年は、去年のリベンジです」との会長さんのご挨拶の通り、天気にも恵まれ盛会のうちに終わることができました。

今年の目玉は「流しそうめん」でした。子どもたちに流しそうめんをごちそうしたいというライオンズの皆さんの熱意のもと、青竹から流れてくるそうめんをキャーキャー言いながら楽しそうに食べる子どもたちはとびきりの笑顔を見せていました。はじめて体験する流しそうめんの味は格別だったと思います。

最後に子どもたちから去年、渡すことができなかった「30年間、ありがとうございます」と書かれた寄せ書きをライオンズクラブの皆さんに渡しました。

記憶に残る楽しい夏の思い出になりました。



卒園生との野球大会

8月12日、恒例となっている卒園生VS在園生・職員との野球の試合が行われました。

今年は夕方からの試合開始ということもあり、朝早く東京から10時間かけて駆けつけた卒園生。生まればかりの赤ちゃんをお風呂に入れてきたので今日は大丈夫ですと言って参加した新米パパの卒園生。一年に一回、野球の時だけ顔を見せる卒園生。

卒園生も在園生も職員のこの日を本当に楽しみにしています。試合はけっこう真剣勝負で随所に好プレー珍プレーが飛び出し盛り上がります。

年甲斐もなく老体に鞭打って、張り切った職員は3日間ほど筋肉痛で動けません。

試合が終わってからの卒園生との懇親会では、仕事の話や昔話などで話が尽きることなく、若い職員は朝日が出るまで付き合っていたそうです。

そして、毎年続けることを約束して帰って行きました。

卒園生の皆さんお疲れ様でした。



新園舎の概要 ~ あらゆる災害から子どもたちを守る施設へ ~

大震災で被災した園舎の改築プロジェクトは、子どもたちと職員のワークショップから始まりました。子どもたちや職員の「こんな施設にしたい」という想いを図面に反映して頂きました。ところが、入札を行った結果、予想金額を大幅に超過したことから設計の見直しを迫られ縮小せざるを得なくなりました。当初、延床面積を2,300㎡、8ユニットの64名の定員としましたが、延床面積を1,815㎡と20%縮小し6ユニット48名の定員に変更しました。ユニットはすべてを南向きとし、太陽光やバイオマスなど再生可能エネルギーを最大限利用することにより環境にやさしく、子どもたちも生活しながら環境についても学習できる建物になる予定です。今月から工事に着手し来年6月の竣工を目指しています。



新園舎完成イメージ図

- 敷地面積 : 13,922.40㎡
- 建築面積 : 842.490㎡
- 床面積 : 1,815.49㎡
- 構造 : 鉄筋コンクリートRC造
(大地震時の耐震強度を法令の1.3倍に設定)
- 規模 : 地上3階建て (機械室・電気室別棟)
北側1階 管理棟、厨房等
北側2階 地域交流ホール、図書室等
南側1~3階 生活棟、
1ユニット6~8名 (全6ユニット)
- 建物高さ : 11.3m
- 児童定員 : 48名
- 駐車台数 : 10台
- 設計者 : 株式会社久米設計東北支社
- 施工者 : 西松建設株式会社北日本支社

起工式写真集



Caritas



この改築プロジェクトは、マルティエザ・インターナショナル、カリタス、ADHの全面的なサポートを受けています。